社会の災害レジリエンスとリスクガバナンスを支援する研究とイノベーションコミュニケーションに関する EU-Japan フォーラム及び現地見学（2025/3/3-4）

テーマ：自然災害、災害リスク、複雑性、レジリエンス構築、多学際アプローチ
会　場：京都大学防災研究所

2025 年 3 月 3 日～4 日、当研究所の姥浦道生教授（空間デザイン戦略研究分野）、ボレー・セバスチャン准教授（国際研究推進オフィス）、朴慧晶助教（災害医療国際協力学分野）は社会の災害レジリエンスとリスクガバナンスを支援する研究とイノベーションコミュニケーションに関する EU-Japan フォーラム（主催：危機管理イノベーションヨーロッパ（Crisis Management Innovation Europe、CMINE）、欧州連合（Europe Union、EU）に参加しました。このイベントは、欧州の災害分野の様々な研究者たちとそのプロジェクトを日本の災害専門家及び研究者に紹介し、欧州委員会が資金提供を行っている「ホライズンヨーロッパ」の枠組みの中で、両者の協力をさらに深めることを目指しています。
（参考：Horizon Europe　https://research-and-innovation.ec.europa.eu/funding/funding-opportunities/funding-programmes-and-open-calls/horizon-europe_en）

セッションの一つの「経験の還元：災害リスク軽減を支援する技術とリスク管理方法論」で、姥浦教授は「東日本大震災の復旧経験から能登半島地震の復旧プロセスへの適用」というタイトルで最新研究の成果を発表しました。姥浦教授はギリシャ、ドイツ、フランス、オランダからの研究者とコミュニティの復興における技術の利点と限界について熱い議論を交わしました。

2 日目のセッションでは、ボレー准教授が「東北大学における災害脆弱性とインクルージョンの科学と仙台防災枠組」と題した基調講演を行いました。当研究所についてのご紹介から始め、ボレー准教授は朴助教と共同で行っている障害者に注目している社会経済的脆弱性の研究成果を共有しました。有意義な議論の中で、ボレー准教授はレジリエンスと障害研究の推進へのフィードバックを受け取り、その研究における EU と日本の協力機会も提供されました。

この EU-Japan フォーラムの主催者の一人であるフィリップ・ケヴァリエ氏（京都大学客員教授、フランス）とフォーラムメンバーのエマニュエル・ガルニエ氏（CEA LSCE、フランス、東北大学客員教授）、ローザ・タンボリーノ氏（トリノ工科大学、イタリア）、フンダ・アトゥン氏（トゥエンテ大学、オランダ）は、世界防災フォーラム 2025 にも参加し、当研究所を訪問、さらに今村文彦教授（津波工学研究分野）と研究に関する打ち合わせを行いました。また、東日本大震災と津波の被災地や石巻市の震災記憶の場所を訪れ、将来の研究活動についての協力に向けた議論を深めました。

文責：ボレー・セバスチャン（国際研究推進オフィス）、朴慧晶（災害医療国際協力学分野）
姥浦道生（空間デザイン戦略研究分野）、今村文彦（津波工学研究分野）

ボレー准教授の発表様子

パネルディスカッションの様子
（3 番目：ガルニエ氏）

（次頁へつづく）

被災地（石巻市）にて

今村教授との研究打ち合わせ